

■東目屋地区住民リスト

東目屋地区長会連合会会長・米沢久隆

東目屋地区は現在、他のエリアと同じように人口減少や空き家、少子高齢化などが大きな問題になっています。特に人口はこの10年で2割も減少しました。2年後の2021年には東目屋地区をまとめていた「東目屋地区総合振興対策協議会」が解体される予定で、時代に合わせた新たな組織変革が必要となっているのが現状です。また、東目屋地区の基幹産業であるりんごは後継者不足や生産者の高齢化が深刻で、今までのやり方を続ければ大丈夫といった時代ではありません。新しいやり方や販路の拡大といった取り組みに生産者自らが挑戦しなければいけないでしょう。

幸いなことに東目屋地区では若い人たちが危機意識を持って立ち上がり、頼もしい限りです。そんな東目屋地区の人たちと一緒に地区外からのアイデアや私たちが気づかなかったような発想力を必要としています。ぜひ皆様のご応募をお待ちしております。



弘前市東目屋出張所所長・石郷岡浩

東目屋地区は飛び地としての歴史があり、弘前市街とはまた違った文化や風土があります。市街出身の私でもその違いを感じることもあり、例えば家庭に残る料理をレシピとして残したり、生活の習慣などを発信したりすることでも地域の魅力となるかもしれません。実は大きな可能性を秘めた土地ではないかとも感じています。

今年度から赴任したばかりですが、東目屋は若者だけでなく年配者も元気で活気にあふれている土地です。しかし、地元の人たちは自分たちの住んでいる東目屋には「何もない」と同じことを言います。生活は日常で、当たり前となっているからかもしれませんが、それらのものが実は当たり前ではなく、意外と話題となることもあるのではないのでしょうか。ぜひ「外から」の視点で、地元の人たちが気づいていないような魅力を見つけてみませんか？ 一緒に東目屋地区を盛り上げていきましょう。



■楽しいね!!東目屋実行委員会委員長・笹谷哲人

りんご農家で笹谷農園を経営。高校時代に応援部部長を務め、バンカラストایلを貫き「最後の応援団員」と一部では語り継がれている。卒業後は地元に残り、りんご農家へ。JA つがる弘前青年部本部長や青年農業士などの活動を続ける一方で、型破りな姿勢は続け東目屋地区でも次々と新しい取り組みに挑戦する。なくなりつつあったねぷたを復活させて「東目屋ねぷた愛好会」を立ち上げ、合同運行に参加するようにした。りんご公園にシードル工房を構える「Kimori」の初期メンバーの一人でもある。ロック音楽好き。



■りんご農家・吉谷聡仁

りんご農家である一方で大型自動車を中心とした整備士の一面を持ち、民生委員としても活動するなど、多岐にわたる。青森空港除雪隊「ホワイトインパルス」の重機整備を担当したこともあるという。西目屋村中学校との事務委託にあたっては、全国的にも珍しい隣接自治体という垣根をなくして東目屋・西目屋児童生徒等交流推進協議会の東目屋父兄代表として尽力した。過去の経歴は不詳だが、実行委員会の中では欠かせない兄貴的存在。



■東目屋小学校 PTA 会長・竹内洋介

会社員で、勤務先が十和田市。車で通勤するというツワモノ。夜の打ち合わせや会合があれば遅くなくても参加する。2015年から東目屋小学校 PTA 会長に就任。PTA 活動を通じて地元東目屋の知らなかったことを知る機会が増えたという。役職から子どもたちの前でスピーチする機会が多く、突然の「押忍」という掛け声で眠っている子どもたちを驚かすことにひそかな喜びを感じている。趣味はアルコール。東目屋にある白神酒造と丸竹酒造店の地酒を愛する。家族も。



■東目屋ねぶた愛好会代表・三上雅人

中野町会にある理容店「ダンディ」の店主。青森市の専門学校を卒業し、弘前市街で経験を積んだ後、母親が営んでいた理容店を継いだ。東目屋地区の消防団に所属するなど地域活動に参加。「祭りごと」が好きで楽しいことには積極的。みんなが楽しく飲み会ができるような場を東目屋に作りたいという。2015年から東目屋ねぶた愛好会代表。合同運行では先頭に立ち、西目屋村からの参加者も含め、約400人を取りまとめる。生涯現役が目標。趣味は釣り。



■大工・繁田直人

東目屋で活動する若手大工。高校卒業後に上京し、埼玉の大手ハウスメーカーで大工として勤務。コンサートホールも手掛けたこともあるという。「自分の家を建てたい」と2009年にリターンする。現在は「繁田建築工房」として活動。消防団に所属し、東目屋初のはしご演技者として毎年5月に行われる消防観閲式に参加している。国吉にある古民家をひそかに改修中。



■米澤貴子

現在は市内小売店のマネージャーとして働く。高校卒業後、東京の大学へ進学。大学卒業後は、かねてから憧れだったマスコミ業界で広告代理店の営業を経験。転職を重ねて2011年に20年ぶりに帰郷する。上京した時と比較すると、活気がなくなってしまうと感じる地元東目屋で東京の経験を生かした企画を考え中。「楽しいね!!東目屋実行委員会」の発起人の一人。今夏に楽しくBBQをしながら肋骨を折る。現在も治療中。原因はわからないという。趣味は断捨離。



■いちご農家・館山敏光

東目屋で唯一のいちご農家。高校卒業後に上京し、介護士として勤務していたが、子育ては生まれ育った地元で、と結婚を機にリターン。帰郷後も介護士として働くが、限界を感じていちご農家へ転身。3棟のビニールハウスを自分自身で作リ、販売ルートも自分で開拓。大阪にも取引先がある。東目屋ブランドのいちごを作るのが夢。デジタル系は苦手。趣味は登山や身体を動かすこと。しっかりとした体格から「クマか館山さんか」と見間違えられるほど。学生時代は柔道部やラグビー部ではなくバレーボール部に所属していた。



■いつものこと目屋新聞／ライター・工藤健

埼玉県出身。東京でウェブライターを経験し、2012年7月から地域新聞「いつものこと弘前版」の立ち上げのために、東京から弘前へ移住。同新聞は14年3月で休刊となるが、15年5月から「目屋新聞」として再開する。17年には東目屋中学校に隣接する薬局跡地を取得。改修しカフェやレストランとして再利用を目論むが、現在も進行形。同地を事務所のように使い、塾も始めてみるが、同じく進行形。本業はライター。東目屋学区の地域コーディネーター。



■あけび蔓細工・竹内啓子

自分で使いたいバッグがほしかったからと始めたあけび蔓細工。工房などに通いながら経験を積み、2002年には「あおり伝統工芸クラフト展」でみだれ編みという技法を用いた手提げカゴが高い評価を得て、金賞となる。以後3年間連続受賞という快挙も。現在は県外のデザイナーからの製作依頼などもあり、作品の出展なども行っている。マイペースで典型的な0型。アトリエは東目屋にある。



■わんつかだばってパン教室・藤田一恵

東目屋生まれ、東目屋育ち、現在も東目屋在住。白神こだま酵母を使ったパン教室を主宰。パン作りは趣味が高じて始めた。資格を取得するために東京まで通った時期もあり、白神こだま酵母を使ったパン職人は青森県では珍しい。東目屋出身であるからこそ、白神を使った魅力発信を考えている。教室は紺屋町にある。



■東目屋公民館

1999年にオープンした「東目屋ふれあいセンター」は弘前市東目屋出張所と東目屋公民館が併設された施設で、現在は7人の職員と2人の体育施設嘱託員が在籍。調理室、体育館、図書室といった設備を管理するほか、文化祭や各種教室や運動イベントの企画運営を担当している。「東目屋ふれあいセンター」は、東目屋住民が集まる場所として使われているだけでなく、地域外からも利用者は多い。



■JA つがる青年部東目屋支部

40歳までのりんご農家たちで結成している生産者団体。毎年の地元直売会では行列ができるほどの盛況ぶり。りんご作りだけでなく昔の製法で味噌づくりを続けている。近年はネット販売や県外での直売といった販路拡大、東目屋りんごのブランド化に力を入れている。

